

北陸石仏の会々報

第 29 号
平成16年9月10日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一ニ一 一九七四

漂泊の石仏三体

平井 一雄

地藏盆の二十四日にふさわしい体験をしたので報告します。其の日の三日前、神通郷史談会(古文書)の仲間で洋画家の長根尾幸子さんより電話が入った。

長根尾さんの師であるSさん(故人)の庭にある石仏三体が整地のため破棄される恐れがあるという情報が入った。

下夕南部(東猪谷)の石仏数体が盗難に遭い、以前から、私や野菊の会が消息を尋ねており、長根尾さんもひよつとしたらという思いで、野菊の会の村田清子さんと私に連絡したという。早速、その日のうちに3人で見に行ったのであるが残念ながら猪谷のものではなかった。

長根尾さんはSさんの存命中に、こういう石仏を美術品として、ここに置くのはどうかという話を先生にしていたというが、商品として入手したものだから問題ない、といわれてそのままにしていた。それでも今まで気になっていたのだという。

石仏は如意輪観音(舟形光背)、丸彫り地藏菩薩と梵字(イ)(金剛宝地藏)をあらわす種字を陽刻で描いた自然石の三体であった。法量を記録しておく。

如意輪観音 高さ52センチ 幅30センチ 奥行き25センチ
地藏菩薩 高さ29センチ 幅24センチ 奥行き24センチ

梵字石碑 高さ44センチ 幅59センチ 奥行き15センチ
二十二日は日曜日であり整地作業は月曜日から続行ということとで私は心配になり、二十三日午前中に現地へいったところ重機で道路縁まで運び出されていた。

作業員の人は、ペットボトル1本をお供えして気持ちを表していたが、梵字の表面は重機で少し削られていた。

また地藏菩薩は振動で壊れるかもしれないから早く移動してほしいと私に懇願された。石仏は重く、ちゅうちよしたが、如意輪観音は2人、梵字碑は3人がかりで私の軽四に積み込むことができた。長根尾さんに連絡をとり、仮安置の場所を検討した。長根尾さんも私もつながりのある富山市開発の真言宗龍高寺の住職古川師に相談したところ、ころよく受け入れられて下さるという。

私の家で一泊した石仏は二十四日龍高寺へ運び、これまで多数遺存されている中世石造物の仲間たちに加わることになった。

ろうそく、線香、お水とにわか坊主の般若心経で供養したことはいうまでもない。だがここが安住の地とは考えられない。石仏研究が進めばこの石仏がこの地方のものと違う形態であり、あるべき地域がわかったり、持ち主が判明することを期待して報告とする。



地藏菩薩 種字 イ

第30回例会報告

神通川上流高原川流域の石仏を訪ねました

平成16年6月6日(日)

平井 一雄

○神岡町土地区 高原川支流の跡津川に沿って少し上ったところ朝日観音堂の境内には小さいながらも多様な石仏が集められていました。双体道祖神や青面金剛、珍しいのは役の行者像、縁行者という文字碑もありました。飛騨街道に多い牛の供養仏、大日如来もありました。奥の方にある墓地にあるたくさんの方如意輪観音や地藏石仏にも関心が集まっていました。一人一人の墓標仏ではないかと話あうとともに、信仰の強さに感動させられました。

○東漆山地区 ずいたん地藏堂境内、ここには大日如来が多数ありました。「為牛二疋」という銘文の入った大日如来があります。明和の年号が入った大日は飛騨では最古かとおもわれます。双体道祖神、青面金剛、六地藏もあります。

○観音山西国三十三箇所観音 最初にバスがやっと入れるような道を登り三十番の竹生島弁財天、千手観音を見学しました。立ち達磨の公園で昼食を取り自己紹介をしました。渡辺敏雄さんの観音山三十三箇所ガイドブック作りが期待されます。一番の八幡不動堂に戻り、三十三番観音巡りをするかどうか相談しましたが雨模様になり、あきらめて朝浦洞雲禅寺の見学に切り替えました。途中毘沙門堂に立ち寄り古い木造のお堂に関心がよせられました。洞雲寺では渡辺さんの旧知の奥さんがおられ井波の彫刻だということをおられました。

今回の例会は、富山県中央部神通川流域の石仏と飛騨地域との接点と思われる越中東街道の石仏を、神岡町在住の渡辺さんの協力をいただいで案内いたしました。いかがでしたでしょうか。

第30回 北陸石仏の会例会参加者名簿

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 佐伯 安一 | 岩城 義弘 | 平井 一雄 | 柳沢 一夫 |
| 北村 市郎 | 西村多恵子 | 大澤 晴美 | 早川 明子 |
| 平野 重二 | 南部 金紀 | 前田起さ子 | 町 余市 |
| 南 金三 | 藤田 正時 | 宮本 武征 | 柳澤 栄司 |
| 尾田 武雄 | 松井 兵英 | 長井 進 | 近藤 洋一 |
| 相古 誠一 | 坂本 光作 | 川辺 佳美 | 以上23名 |



富山県井口村蛇喰A遺跡の呪符

尾田 武雄

会員で考古学者西井龍儀さんより、数年前に井口村から出土した木製品の呪符を見ておいてくれと依頼され、教育委員会に出向いたことがある。その際に、梵字の書かれた木製品を数点拝見し、光明真言梵字だろうなという意識であった。ところが先日、千秋謙治氏（井口村文化財保護審議委員長・当会員）と教育委員会で職員から『蛇喰A遺跡』（一九九八年刊）を戴き、そこで木製品の実測図を拝見した。ここに描かれた像が「天刑星」という。石仏を研究するものにとつては、左手に小さい人間を持つ像容に、青面金剛のシヨケラや大黒をイメージする方が多いと思われる。しかし、尊名は定かでないので、ここに転載して、会員の意見を聞きたい。また石仏研究は、単に石仏だけではなく、今後は民間信仰の木製品などにも目を向けていきたいものである。



《石仏紹介》16

【伊吹山の日本武尊】

柳澤 栄司

伊吹山は滋賀と岐阜の県境にそびえる名山。標高一三七七mで滋賀県一の高峰。昭和62年以来久しぶりで、花を見に登った。気象の変化の激しい山で、関ヶ原近くなっても全然見えなかった。山頂に、日本武尊の像が立つ。ニッポンブソンという人が居て笑わせられた。誰でもこの前で必ず記念写真を写す。すこし離れて弥勒菩薩。また少し離れて左の弥勒菩薩がある。



ご案内

- ・平井一雄氏が『日本の石仏』No.110で「富山県神通川上流域の月待ち行事と二十三夜塔」を発表。
- ・同誌に西田栄一氏が長野県下諏訪町の旧里宮稲荷神社境内不動明王を綺麗な写真で紹介された。
- ・尾田武雄氏が石仏の里庄川町の石仏悉皆調査報告書の監修をしている。
- ・会員が減少傾向にあり、会計も逼迫しています。
- ・ご協力をお願いいたします。

第31回例会のご案内

- ◎月 日 平成16年10月24日(日)
- ◎時 間 集合 砺波駅 午前7時30分
富山駅 午前8時30分
- ◎会 費 三〇〇〇円
- ◎申し込み 次の事項を記入の上、はがきでご連絡ください
住所・氏名・電話番号・集合場所
- ◎申し込み先 千九三九一三三一五
砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
北陸石仏の会事務局

- ◎締め切り 平成10月20日(水)
- ◎昼食は各自ご持参下さい

*見学先

平井一雄氏の案内

神通川周辺の石仏(富山市南部・大沢野町)

- 一、富山市開発 龍高寺 所要時間40分
宝篋印塔(八十八箇所石仏台座)・五輪塔受持弥勒仏四体・五輪塔残欠・板碑数百体
- 二、大沢野町小黒
阿弥陀三尊石仏(牧喜右工門作)
大沢野町松野
聖徳太子二歳像(石黒家屋敷仏)
阿弥陀三尊石仏・阿弥陀一尊仏
- 三、大沢野町二松 右立山道 道標
- 四、大沢野町坂本
観音堂 茅葺 阿弥陀三尊石仏(彩色)
石仏数体)
- 五、大沢野町市場
観音堂(三十三ヶ所観音・五輪塔受持弥勒仏・中世如来形)
- 六、帝龍寺境内石造仏
三十三ヶ所観音・五輪塔・寛明宝号塔(ユ南無遍照金剛)
- 七、寺家公園にて昼食
- 八、大沢長町直坂
蚕神・如意輪観音道標・不吹堂(級長戸辺神社)・びわ持弁財天・南無仏舟倉用水供養碑
- 九、時間に余裕があれば牛ヶ増から南 下夕北部石仏 立山下
深谷ノ湯 道標・大日如来・法華塔など